



## リスク・マネジメント

平成10年3月  
日本医師会医療安全対策委員会

### 目的

- ・組織の有形および無形の資産の保護
- ・顧客、訪問者、従業員など関係者の傷害からの保護
- ・事故の原因や紛争の火だねの検出、分析、対策
- ・業務の質をモニター・改善することによる事故や紛争の予防

### 医療において特に考慮すべき視点

- ア) 医療を担う者としての基本的な姿勢を再確認する
- イ) マイナスの情報を隠さず詳らかにする習慣を育てる
- ウ) 原因追及の作業を「犯人探し」で終わらせてはいけない
- エ) 正確な情報に基づき事故予防システムを構築し活用すること

### 医療事故予防対策員(メディカル・リスク・マネージャー)

- (1) 医療事故および紛争に関する情報収集体制とその組織の確立
- (2) 医療過誤の報告体制等の組織を整備する
- (3) 院内感染対策マニュアルの作成と徹底
- (4) 医療現場の意識改革(患者満足度)
- (5) 医療職の労働条件の改善(職員満足度)
- (6) 地域連携にリスク・マネジメントを導入する
- (7) 経営のあり方に対する提言(理念・信条の見直し)



アメリカの損害保険会社で調査に携わっていたハーバート・ウィリアム・ハインリッヒが、ある工場で発生した数千件の労働災害を統計学的に調査した結果、この法則を導き出して成果をまとめた。その後、世界的にハインリッヒの法則と呼ばれるようになった。



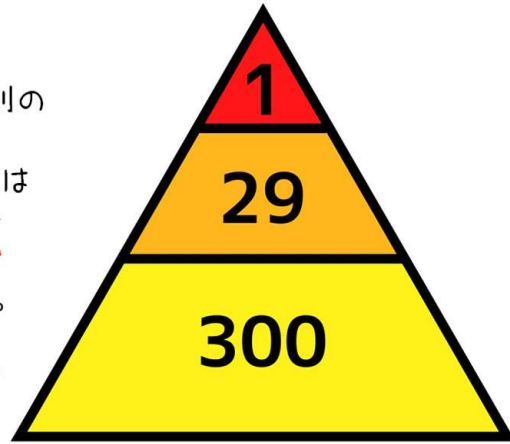
日本でも1951年に『災害防止の科学的研究』として翻訳され、世界中で災害防止のバイブルとなり、ハインリッヒの法則は現在も、さまざまな労働現場で事故への注意喚起に活用されている。

ハインリッヒの法則は、大事故を未然に防ぐためには、小さなミス、ヒヤリハットが起きないようにすることがきわめて重要であり、この情報をできるだけ早く把握し、的確な対策を講じることが必要であるということ。

### ハインリッヒの法則

労働災害における経験則の一つである。

1つの重大事故の背後には29の軽微な事故があり、その背景には300のインシデントが存在するというもの。「ハインリッヒの災害トライアングル定理」または「傷害四角錐」とも呼ばれる。



四つ葉のクローバー リスクマネジメント レポート						報告者					
記載日時		令和 年 月 日 AM・PM 時 分				事業所		有料 デイ ( )			
発生日時		令和 年 月 日 AM・PM 時 分				場所					
事故区分	身体	<input type="checkbox"/> 転倒・転落(軽度) <input type="checkbox"/> あざ・傷・打撲(軽度)		徘徊	<input type="checkbox"/> 離脱(軽度) <input type="checkbox"/> 迷惑な徘徊		排泄	<input type="checkbox"/> 不潔行為 <input type="checkbox"/> 放尿・脱糞			
	暴力不穏	<input type="checkbox"/> 暴力・喧嘩 <input type="checkbox"/> 暴言・口論 <input type="checkbox"/> 軽度不穏(他者不在) <input type="checkbox"/> 重度不穏(他者迷惑)		自責	<input type="checkbox"/> 自傷行為		薬物	<input type="checkbox"/> 拒薬 <input type="checkbox"/> 落薬 <input type="checkbox"/> 誤薬 <input type="checkbox"/> 内服忘れ			
				食事	<input type="checkbox"/> 誤嚥・誤飲・窒息 <input type="checkbox"/> 異食		危険	<input type="checkbox"/> 危険な立上がり等 <input type="checkbox"/> 器物投げつけ			
									<input type="checkbox"/> 器物破損 <input type="checkbox"/> 金銭トラブル <input type="checkbox"/> 盗難		
職員による不適切行為 <input type="checkbox"/> 事務・情報・記録関連 <input type="checkbox"/> 接客関連 <input type="checkbox"/> 環境不衛生・衛生不備 <input type="checkbox"/> その他											
対象者情報											
氏名		要介護度 1 2 3 4 5									
障害	J A B C	J=自立 A=要一部介助 B=車椅子中心 C=要三大介護									
自立度	認知 I II III IV	I=自立 II=要服薬管理 III=異食矢禁有 IV=意思疎通困難									
トラブル発生直後のバイタル		体温	℃	血圧	mmHg					SPO <sub>2</sub>	%
再検のバイタル( 分後)		体温	℃	血圧	mmHg					SPO <sub>2</sub>	%
状況・内容											

その場で行った対応や利用者様の反応		
職員コメント欄		
サイン : 一言		
その後の対応や改善		
継続		終了 2020.08.10

リスクマネジメント 集計報告 R4年 1月 1日～ 1月 31日

事業所 有料老人ホーム 通所介護事業所

発生・発見日時	内容 (誰が、どこで、どうなった)
1月5日	萩●様:朝のバイタル測定中トイレのドアが開いていたので除くと中で尻もちをついている萩原様がいた。
1月6日	森●様:入浴時上衣を脱いだ際に左上腕の内側に紫色の痣を発見。
1月7日	松●様:入浴の際に両腕に内出血を発見する。
1月7日	●久●様:手の爪を切る際に親指の肉も一緒に切ってしまう。
1月15日	栗●様:午睡後ベッドから起こす際に左足がベッドの持ち手に当たり剥離する
1月18日	坂●様:他利用者の車椅子ブレーキのところの紙の芯を食べてしまう。
1月19日	香●●●様:入浴時腕に痣があると報告を受ける。2日前にGEを行うとき抑えてきたものだと思う。

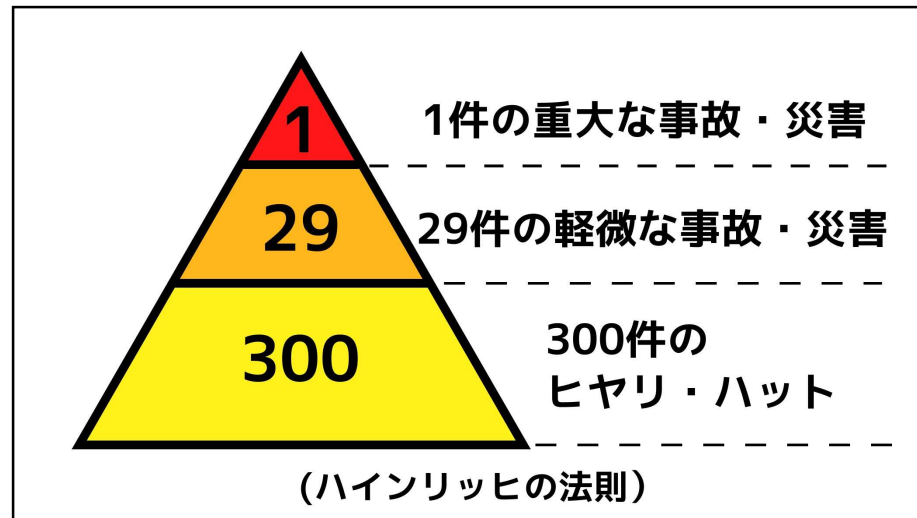
集計報告  
1月は7件でした。痣傷打撲4件、転倒1件、異食1件、職員関係1件  
デイサービスでは入浴があるので、身体状況を確認し痣を発見する機会が増えます。高齢者の皮膚は薄く傷つきやすいので注意が必要だと思います



分類	9月	10月	11月	12月	1月
合計件数	5件	5件	4件	3件	7件
事故					
転倒・転落(受診)					
怪我・窒息(受診)					
離脱(警察対応)					
身体					
転倒・転落(軽度)	1	1	2	1	1
あざ・傷・打撲(軽度)	3	2	1		4
危険					
危険な立上がり等				1	
器物投げつけ					
徘徊					
迷惑な徘徊					
異常・迷惑行動					
暴力不穏					
喧嘩・口論					
軽度不穏(他者不在)		1			
重度不穏(他者迷惑)					
自責					
自殺行為					
自傷行為					
食事					
誤嚥・誤飲・窒息					
異食・盗食			1		1
排泄					
不潔行為					
放尿・脱糞					
落葉					

個人	9月	10月	11月	12月	1月
合計件数	5件	5件	4件	3件	7件
中●●子様					
宮●●様					
松●●様	1		1	1	1
光●●恒様					
田●●●つ様					
森●●●子様	1	3			1
菊●●●様					
小●●子●●●様		1			
岡●●●様					
阿●●●●ミ様	1				1
内●●睦●●様					
坂●●●子様					1
栗●●●代様					
川●●●ル子様					
香●●●●つ様			1		1
金●●●宏●●様				1	
秋●●●洋●●様	1				1
栗●●●ミ●●様			1		1
小●●●千●●子様				1	
大●●●秀●●様			1		









四つ葉のクローバー リスクマネジメント レポート						報告者						
記載日時	令和	年	月	日	AM・PM	時	分	事業所	有料	デイ	( )	
発生日時	令和	年	月	日	AM・PM	時	分	場所				
事故区分	身体	<input type="checkbox"/> 転倒・転落(軽度)	徘徊	<input type="checkbox"/> 離脱(軽度)	排泄	<input type="checkbox"/> 不潔行為		器物	<input type="checkbox"/> 器物破損			
		<input type="checkbox"/> あざ・傷・打撲(軽度)		<input type="checkbox"/> 迷惑な徘徊		<input type="checkbox"/> 放尿・脱糞			<input type="checkbox"/> 金銭トラブル			
	暴力不穏		<input type="checkbox"/> 暴力・喧嘩	自責	<input type="checkbox"/> 異常・迷惑行動	薬物	<input type="checkbox"/> 拒薬		<input type="checkbox"/> 盗難			
			<input type="checkbox"/> 暴言・口論		<input type="checkbox"/> 自傷行為		<input type="checkbox"/> 落薬		<input type="checkbox"/> 危険な立上がり等			
		<input type="checkbox"/> 軽度不穏(他者不在)	<input type="checkbox"/> 誤嚥・誤飲・窒息		<input type="checkbox"/> 誤薬		<input type="checkbox"/> 器物投げつけ					
	<input type="checkbox"/> 重度不穏(他者迷惑)	食事	<input type="checkbox"/> 異食	<input type="checkbox"/> 内服忘れ		危険						
職員による不適切行為 <input type="checkbox"/> 事務・情報・記録関連 <input type="checkbox"/> 接遇関連 <input type="checkbox"/> 環境不衛生・衛生不備 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/>												
対象者情報								受傷部位				
氏名		要介護度					1	2	3	4	5	
障害	J	A	B	C	J=自立 A=要一部介助 B=車椅子中心 C=要三大介護							
認知	I	II	III	IV	I=自立 II=要服薬管理 III=異食矢禁有 IV=意思疎通困難							
トラブル発生直後のバイタル	体温	℃	血圧	/	mmHg	SPO <sub>2</sub>	%					
再検のバイタル(分後)	体温	℃	血圧	/	mmHg	SPO <sub>2</sub>	%					
状況・内容												

### マーフィーの法則

イギリスでは、**こんちきしょうの法則**と言われ、建物解体業者の常套句として使われ始めた。

「**いかに準備万端でも想定外の事は起こる**=**サッチャーの法則**」として有名。

多くはユーモアの類で笑えるものであるが、精神科医や学者の中には、認知バイアスのサンプルとして捉えることが可能なものもあるとの見方もある。

ビジネス本、自己啓発本として出版もされた。

フランスでは**糞つたれの法則**と呼ばれる注意を促す表現がある。

### 糞つたれの法則

- ・ 起こる可能性のあるものは、いつか起こる
- ・ うまうまかなくなりうるものは、うまうまかなくなる
- ・ うまうまかなくなるいくつかの方法があるとき、そのうちでも最悪のものが最悪の時期に起こる
- ・ 何かを行うのに複数の方法があり、それらの方法のひとつが破滅的な結果を及ぼすものであるとき、誰かがそれを実行する
- ・ うまうまかなくなる方法がない時でも、うまうまかなくなる
- ・ だからといって放っておいた場合、悪い状況からさらに悪い状況に自動的にシフトする
- ・ もし何かとうまうましているようなら、あなたは何かを見落としている

落としたトーストがバターを塗った面を下にして着地する確率は、カーペットの値段に比例する

マーフィーの法則の中でも特に秀逸な「法則」としてしばしば引用されるものである。

アストン大学のロバート・マシューズは「トーストの転落：マーフィーの法則と基本的定数」という論文を発表した。

彼はその論文の中で通常のテーブルを使用した時ほとんどの場合にバターを塗った面が下になることを証明し、バターを塗った面を上にして着地させるためには高さ3メートル以上のテーブルを使うべきだという結論を出した。

マシューズはこの功績により1996年にイグノーベル賞を受賞した。

バター面が下になる確率が何に比例するのかというと、「カーペットの値段」ではなく、テーブルの高さということになる。

マーフィーの法則のいろいろ

- ・風呂に入ったとたん電話がなる。
- ・傘を持って家を出た日に限って、雨が降らない。
- ・いちど認めた例外は、次からは当然の権利となる。
- ・電車で満員の時、自分の立っている前の席だけが空かない。
- ・自分が急いでいる時ほど、渋滞にまき込まれる。
- ・ジュースが飲みたい時に限って、小銭がない。
- ・勉強をしなかった処に限って試験に出る。
- ・苦勞して作ったカンニングペーパーは、使う前に内容を覚えてしまう。
- ・計算間違いに気が付いて直し、もう一度計算し直すと、第3の答えが出る。
- ・机の上のお茶は、いつも最も重要な書類のほうに向かってこぼれる。
- ・お菓子の本の通りに作っても、お菓子の本にあるようなものは作れない。
- ・子供は片づけた処から散らかし始める。
- ・声の大きい人ほど、主導権を握られる。
- ・どうでもよいときに絶好調となる。

マーフィーの法則の方程式

プリティッシュガス社

経済学者・心理学者・数学者を1,000人集めて研究

緊急性 = U 複雑さ = C 重要性 = I 技術性 = S

頻発性 = F 腹立たしさ = A

(各作業に基準を作り、変数は0.1から9を当てはめる)

公式 :  $((U+C+I) \times (10-S)) / 20 \times A \times 1 / (1 - \sin(F/10))$

算出される数値を、最悪の事態となる尺度として使用する。

緊急性	9	7	5	3	2	1	0.1
複雑さ	9	7	5	3	2	1	0.1
重要性	9	7	5	3	2	1	0.1
技術性	0.1	1	1	2	4	8	9
頻発性	0.1	1	1	2	4	8	9
腹立ち	9	7	5	3	2	1	0.1
マーフィーの値	119	59.5	30.3	8.65	2.19	0.08	0.00

次回予告

総まとめ

